おしま 西⇔東エリア
畜産 Mini Letter
2022年3月1日
牧草 11
■ 発 行：渡島農業改良普及センター（本所） ｜ 【電 話】 0138-77-8242

今号
- ☑ 基本チェック
- □ 生産者の事例
- □ トレンド情報
- □ その他

地域の畜産農家・関係機関・普及センターが技術情報を通して結ばれるよう、2016年４月に誕生！
『基本チェック』,『生産者の事例』,『トレンド情報』の３ジャンルを中心にお届けします。

「チカラシバ」の侵入を秋に集中点検する

サマリー

- 当地区の一部に来歴や生態不詳の「チカラシバ」が侵入している。出穂後の９月以降、ハッキリと分かる。
- 大量の種子をつけて繁殖するため根絶は難しく、府県の草地では“強害雑草”として認知されている。
- 毛の長いブラシ状の穂が、放牧牛にとってストレスとなり、草の利用性を低下させたり眼病を誘発する。
- 最も低コストで実践しやすい対策は、侵入草地の収穫後に機械を洗浄し、種子の拡散を防ぐことである。

9~10月中旬に出穂　まずは侵入草地を特定

- 草地のイネ科雑草としては、来歴や生態不詳の「チカラシバ」が侵入しています。
- 分布域の北限を“青森県”、あるいは“北海道南西部”とする雑草図鑑があるなか、当センターでは、一部地区の採草地と放牧地等で侵入を確認しています（図1）。
- 春～夏までは気づかず、9月以降に“黒紫色”のブラシ状の穂が目立ちます（写真）。

図１ 観察エリア（2021年現在）

SY地区：2021.9.27〔草地内に侵入・群生するチカラシバ〕

KN地区〔道路脇の自生〕
2020.10.1

- ✔ イネ科の多年草。大きな株を形成し、堅くて強い茎が根元から直立する。
- ✔ 秋に草丈60cm前後で出穂し、種子を落とした10月遅くには目立たなくなる。
- ✔ 草地に隣接する畦道、ほ場取り付け部、道路脇に自生する個体も見かける。

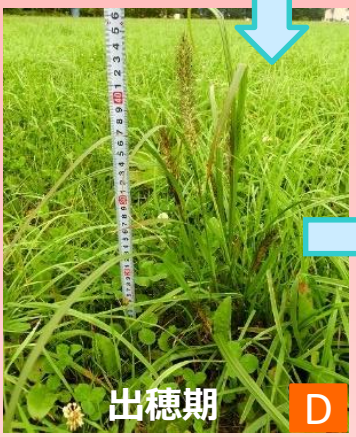
海の向こう　府県では“強害雑草”

※掲載写真はすべて当地区で撮影

・出穂すると、2週間ほどで穂の一部に種子ができ、3週間経過するとほとんどが“完熟種子”となります。
・採草や放牧牛が採食すると、草丈は短くなりますが、8月中旬以降の利用がなければ、再び出穂します。

✔ 融雪後の萌芽は、オーチャードグラス等より１ヵ月ほど遅い（府県）。
✔ 10cm以上ある穂は、毛の長いブラシ状。遠目に“黒っぽく”見える。

A:晩秋に採取した穂　（SM地区：2021.10.12）
B:地下茎を持たない根（M地区：2021.10.12）
C:1番草収穫時期、出穂前の株（MS地区：2020.5.29）
D:侵入を確認しやすい時期（SN地区：2019.9.3）
E:黒紫色をした特徴的な穂（SM地区：2021.9.27）



草の利用性低下

放牧地では

★ 出穂すると、採食しなくなる
★ 穂の長い毛がストレスとなるため、株の周辺に近寄らない

＊その結果、食い残しが増える

＊また、「ピンクアイ症」（結膜・角膜の炎症）を誘発する恐れ

■ 北関東～西日本では、出穂前後に集中的に採食させ“結実させない”放牧抑圧技術が確立

MS地区：2020.10.1〔採草放牧兼用地〕

あの“イネ科雑草”のように　周辺に拡げない・・・

・過去に「ハルガヤ」、「メドウフォックステイル」は、わずか数年で当地区に拡がりました。それらの難防除雑草と「チカラシバ」の共通点は、“大量の種子をつける”ことです。侵入（発生量）の少ないうちは、株の“抜き取り”から始めましょう。

1　次の草地の収穫前に　収穫機械を洗浄

「ハルガヤ」等の防除対策と同じ！

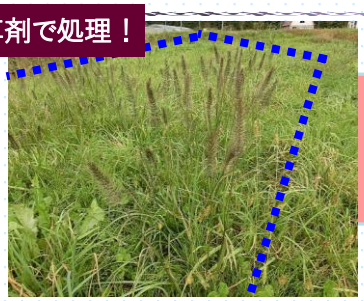
原図：ケルヒャー ジャパン（株）
https://www.kaercher.com

実は最も低コストな防除技術

2　群生している場合　スポット的に草地更新

グリホサート系除草剤で処理！

＊直径5cm以上株が点在（200倍）



薬量等はお問い合わせください

留意

■ 防除技術は確立されていません。まずは自家草地の侵入状況を確認し、今後の収穫順序や乾牧草の地域内流通を介した種子拡散に留意しましょう。

【出展／参考文献】

・『牛の放牧による「チカラシバ」の駆除法』ほか（農研機構）
・『牛の強放牧による強害雑草チカラシバの防除』（農研機構）
・『公共牧場機能強化マニュアル』（日本草地畜産種子協会）

○詳しくは、渡島農業改良普及センター本所／畜産担当まで、お問い合わせください　｜　【電 話】 0138-77-8242

渡島農業改良普及センター
ホームページ（トップ）

ダウンロードはここから（PDFファイル）　渡島　営農技術情報　検 索

http://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/tec/tikusan.htm